

簡易版資料④

地方独立行政法人 北松中央病院 【第6期中期目標期間の業務実績見込評価】

◆法人による小項目評価

区分	判断基準
A	目標を大幅に上回って実施している
B	目標を上回って実施している
C	目標を概ね実施している
D	目標をやや下回っている
E	目標を大幅に下回っている

◆佐世保市による小項目評価

区分	判断基準
A	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（特に市が認める場合）
B	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	目標の達成のためにはやや遅れている
E	目標の達成のためには重大な改善事項がある（特に市が認める場合）

◆佐世保市による大項目評価

区分	点数	評価結果
A	5	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
B	4	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	3	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	2	目標の達成のためにはやや遅れている
E	1	目標の達成のためには重大な改善事項がある

◆佐世保市による全体評価

区分	点数	評価結果
A	5	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
B	4	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	3	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	2	目標の達成のためにはやや遅れている
E	1	目標の達成のためには重大な改善事項がある

●全体評価

C	概ね計画通りに進んでいる
89点 ÷ 29小項目 = 3.07点 ≒ 3点	

大項目	点数	小項目	平均点	評価
1 住民サービス等質の向上	59	19	3	C 概ね計画通り
2 業務運営の改善及び効率化	9	3	3	C 概ね計画通り
3 財務内容の改善	12	4	3	C 概ね計画通り
4 その他業務運営に関する重要事項	9	3	3	C 概ね計画通り
合計	89	29	—	

●評価まとめ（要点）

○第6期中期目標期間は、世界的なパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症により、令和2年度及び3年度で実績値が目標値を達成できない項目が散見されたが、これは法人の努力を超えた範疇のものであることは明らかであり、令和4年度の見込み値も含め、同感染症の影響を考慮して評価した。

○大項目区分の「住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「その他業務運営に関する重要事項」は、すべてC評価となった。

○全体評価についてもC評価となり、北松中央病院の第6期中期目標期間の業務実績見込評価結果は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。なお、評価に当たり特徴的であった内容は次のとおり。

医療体制：R2年度、R3年度の業績においては、様々な場面で新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。特に感染症指定医療機関として必要な感染対策を講じつつ、佐世保県北二次医療圏内でも高齢化などにより顕著な医師不足が見られる圏内北部地域において、R2年度までは内科医8名と外科医1名の常勤医師、R3年度は内科医9名（外科医は非常勤医師）を引き続き確保し、地域住民への安定した医療の提供に努めた。

高度専門医療：新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、高い医療レベル維持のため、医師、医療スタッフの研修を行い、透析医療、内視鏡検査・処置、心臓カテーテル検査・治療を継続している。また、高度・専門医療整備のため、年度ごとに医療機器を導入している。

救急医療・介護保険サービス：新型コロナウイルス感染症の対応に追われながらも、一般の救急患者の受け入れ体制を維持し、目標とする救急患者の院内治療の完結率向上にも努めた。訪問看護や居宅介護支援については、利用者アンケートの結果をサービス改善に生かしながら、訪問件数など目標値を上回る実績が上げられている。

新型コロナウイルス感染症対応：新型コロナウイルス感染症への対応については、佐世保県北二次医療圏の北部地域に1つしかない第2種感染症指定医療機関として、疑いを含む感染患者の受け入れのための病床確保と、その患者受け入れを行った。また、外来診療においても発熱患者に対し積極的に新型コロナウイルス感染症の検査を行い、その感染拡大の防止に努めるなど、地域における中核的役割を果たした。

財務・収支：R2年度、R3年度の当院の経営においては、新型コロナウイルス感染症の影響で、患者数が大幅に減少し、入院、外来などの医業収益に大きなダメージを受けた。一方で、感染対策のための給与費・材料費などで支出がかさみ、大きな赤字に陥る可能性があった。しかしながら、空床確保に対する補助金をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策のための各種補助金などで補てんされた結果、最終的にはR2年度1.7億円、R3年度2.4億円の純利益が生じている。今後、R4年度以降、新型コロナウイルス感染症が収束し補助金収入がなくなる一方で、減少した患者数が従来の状態に戻るまでは、厳しい経営が続くことも予想される。また、R2年11月に松浦市に開院した「松浦中央病院」とは一部、診療等において競合する部分があるため、その動きにも注視しつつ上手く連携していく必要がある。

大項目	1 住民サービス等質の向上		
小項目	19項目 (B: 2項目 C: 17項目)		
合計点	59	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 医療の提供 (地域の実情に応じた医療の提供)	C	D	C	3
② 医療の提供 (高度専門)	C	D	C	3
③ 医療の提供 (救急)	C	D	C	3
④ 医療の提供 (生活習慣病 (予防) への対策)	C	－	C	3
⑤ 医療の提供 (感染症医療・災害対策)	B	－	B	4
⑥ 医療の提供 (リハビリテーションの充実)	C	D	C	3
⑦ 医療の提供 (介護保険サービス)	C	－	B	4
⑧ 医療水準の向上 (医療スタッフの人材確保)	C	－	C	3
⑨ 医療水準の向上 (医療スタッフの専門性及び医療技術の向上)	C	－	C	3
⑩ 医療水準の向上 (医療人材の育成)	C	－	C	3
⑪ 医療水準の向上 (臨床研究の推進・医療の質の向上)	C	－	C	3
⑫ 患者サービスの向上 (待ち時間の改善)	C	－	C	3
⑬ 患者サービスの向上 (院内環境の快適性向上)	C	－	C	3
⑭ 患者サービスの向上 (患者満足度の向上・インフォームド・コンセントの徹底)	C	－	C	3
⑮ 患者サービスの向上 (職員の接遇向上)	C	－	C	3
⑯ 患者サービスの向上 (医療安全対策の実施)	C	－	C	3
⑰ 地域医療機関等との連携 (地域医療機関との連携)	C	－	C	3
⑱ 地域医療機関等との連携 (地域医療への貢献)	C	－	C	3
⑲ 市の施策推進における役割 (市の保健・医療・福祉行政との連携)	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ① R3年度からは内科医9名の常勤医で入院・外来機能を保持し、地域住民に安定した医療の提供を続けることができている。また、糖尿病内科、脳神経内科、外科、整形外科、脳神経外科の慢性疾患は非常勤医にて診療を行えている。
- ② 呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、外科医がそれぞれ高度な専門的医療を継続するために、学会や講演会などに参加し研修を行うとともに高度医療の実践に必要な医療機器の更新や整備を行い、医療スタッフを含めた病院全体のスキルアップを図ってきている。
- ③ 地域での二次救急病院として、年間400台前後の救急車を受け入れ、目標に近い地域での初期・二次医療の完結率を保持し、365日救急医療に対応している。
- ④ 合併症である循環器疾患、糖尿病性腎症に対しても専門医、心臓リハビリ指導士、糖尿病療養指導士などが早期から介入し治療にあたって、血液浄化センターを用いて地域の透析患者への治療を提供している。
- ⑤ **感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症に対して、フェーズ0から地域での中心的な診療を行い、フェーズ4から緊急時レベルⅠ/Ⅱにおいては、中等症患者を中心に重症患者まで診療を行っている。また、新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、医療従事者ばかりでなく地域住民のワクチン接種を積極的に行っている。**
- ⑤ 災害拠点病院として重要な役割を完遂できるように大規模な災害や事故の発生に備え、必要な人的・物的資源の整備により、必要となる医療救護活動を実施できる体制を維持している。
- ⑥ 理学療法士6名、作業療法士2名、言語聴覚士1名を維持するとともに、急性期から回復期リハビリを個別により充実した訓練を実施し、患者の早期の在宅復帰を支援する体制を維持している。さらに、高次医療機関から回復期リハビリテーションが必要な患者を積極的に受け入れ、在宅への復帰とともに復帰後の外来診療における患者の機能回復を支援している。また、佐世保北部地域等で唯一の心臓リハビリセンターを用いて、心筋梗塞後や慢性心不全後、大血管手術後の患者の在宅復帰の支援を行っている。
- ⑦ **周辺地域の住民が、在宅での介護や治療を安心して満足に受けられるよう、地域に必要とされる体制を維持・拡充し、補完するため、在宅サービスを提供しており、居宅介護支援事業所、訪問看護ともに利用者に顧客満足度のアンケートを実施し、利用者の声を聴き改善すべきことは改善を行いサービスに繋げている。**
- ⑧ 医学生6名 (医師免許取得者2名含む)、看護学生1名、薬学生1名に修学資金を貸し付け、将来のスタッフの確保を行っている。
- ⑧ 医師の事務作業の負担軽減のため、医師事務作業補助者を配置しアシストする範囲を広げ、書類の作成の補助を行っている。
- ⑬ 患者や来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修及び補修を適宜に実施している。特に、入院者の環境に対する評価は期中年度ごとに高まっている。
- ⑭ 患者満足度調査の結果、全体の平均点がわずかではあるが向上し、一方、不満、やや不満が多い「診療待ち時間」、「駐車場の利便性」についての割合は共に減少してきて、患者サービスは着実に向上してきている。

小項目評価抜粋（B評価以上又は法人評価と評価者評価に違いがあるもの）

小項目区分	法人	評価者 最終	評価者の評価内容
⑤医療の提供（感染症 医療・災害対策） 【北 13～15P】	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症に対して、フェーズ0から地域での中心的な診療を行い、フェーズ4から緊急時レベルⅠ/Ⅱにおいては、中等症患者を中心に重症患者まで診療を行っている。また、新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、医療従事者ばかりでなく地域住民のワクチン接種を積極的に行っている。さらに、全職員を対象とした院内感染対策研修会を実施し、職員の感染症に対する知識・対応力の向上に努めている。 ・災害対策については、災害拠点病院として重要な役割を完遂できるように大規模な災害や事故の発生に備え、必要な人的・物的資源の整備により、必要となる医療救護活動を実施できる体制を維持している。また、迅速な対応が行えるように定期的な訓練を行い、災害に対する知識や技術を深めている。 ・研修については、院内でスタッフに対して実施し、災害派遣技能維持研修などに積極的に参加し自己研鑽に努めている。これらの点から、感染症対策、災害対策を通じて地域に多大の貢献をされており、B評価とする。
⑦医療の提供（介護保 険サービス） 【北 19～20P】	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の住民が、在宅での介護や治療を安心して満足に受けられるよう、地域に必要とされる体制を維持・拡充し、補完するため、在宅サービスを提供しており、居宅介護支援事業所、訪問看護ともに利用者に顧客満足度のアンケートを実施し、利用者の声を聴き改善すべきことは改善を行いサービスに繋げている。 ・定期的な委員会と病棟での多職種との合同カンファレンスに参加し、居宅介護支援、訪問看護、MSW、リハビリ科、外来等で情報の共有や事例検討などカルテや院内メールを利用し連携がスムーズにいくように努めている。 ・令和4年度の目標は人材確保が難しくなってきたことから目標を下げているが、計画全体で見ると、これらの点からB評価とする。

大項目	2 業務運営の改善及び効率化		
小項目	3項目 (C: 3項目)		
合計点	9	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 効率的な業務運営と情報公開	C	－	C	3
② 事務部門の専門性の向上	C	－	C	3
③ 職員満足度の向上	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①毎月開催される理事会で業務運営方針を決定し決定事項に則した業務が効率的に行えるよう毎月各部門の責任者が出席する病院運営戦略会議を開催し、職員全員に周知徹底している。
- ②医事部門においては、定期的な院内研修、院外研修を行い、診療報酬改定に対応できる専門職員を育成する。また、専門性の高い医療クランクを育成し、医師、看護師の書類作成などの補助を行い、適切な事務処理を効率的に行うとともに医療スタッフの負担の軽減を図る。
- ②診療報酬改定などに対して職員の総合力を強化する（スキルアップ）ため、代理での職務を遂行できるようになり、臨機応変に対応することができている。
- ③短時間勤務などの職員のニーズにあった勤務形態なども考慮していくなど、職員の満足度の向上と離職防止に努めている。（中期目標期間中の離職者については、新人看護師はおらず、定年、県外の大病院でのスキルアップ、家人の転勤などの理由で離職している。）離職率を低下させるためにも、職員の満足度調査（ES）実施を検討する必要がある。現状では職員満足度を高く維持している。

大項目	3 財務内容の改善		
小項目	4 項目 (C : 4 項目)		
合計点	12	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市 通常	市 最終	点数
① 経営基盤の確立と財務体質の強化	C	B	C	3
② 収益の確保と費用の節減 (収益の確保)	C	B	C	3
③ 収益の確保と費用の節減 (費用の節減)	C	－	C	3
④ 予算・収支計画・資金計画	C	B	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ① R2年度、R3年度は、純利益等の各収益の確保の指標については、新型コロナウイルス感染症による病床確保のための補助金などにより、目標値より大幅に増加した数値を計上できている。
- ①財務内容の改善の指標 (自己資本比率、固定長期適合率、流動比率) については、安全性を示す数値の範囲内に位置している。
- ②経常収支比率、営業収支比率は計画より上回っているが、補助金などを除くと医業収益は入院制限、外来長期処方などで減少している。
- ③材料費比率、医薬品比率について、目標値を下回って推移するように運営している。後発医薬品採用率 (数量ベース) は、少しずつ高める努力が見られる。医薬品、診療材料については購入方法の見直しは出来なかったが、個々の雑貨、事務用品などについては新規納入先の開拓ならびに同一性能の安価製品への移行を引き続き行っている。
- ④新型コロナウイルス感染症の影響による救急医療、入院患者の制限などがあり、入院診療収益、外来診療収益は大幅な減収であるが、病床確保に対する補助金などにより営業収益は大幅な増収になる見込みである。
- ④費用について材料費などは減少しているが、補助金を利用した医療機器の減価償却費2,113万円の増加、備品整備、光熱水費などの経費などの経費1億7,965万円の増加がある。その結果、約5億5,244万円の当期純利益の見込みである。

大項目	4 その他業務運営に関する重要事項		
小項目	3項目 (C: 3項目)		
合計点	9	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市 通常	市 最終	点数
① 地域医療構想の実現に向けた取組み	C	－	C	3
② 働き方改革の推進	C	－	C	3
③ 災害時における事業継続性の強化	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①佐世保県北医療圏において、新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、医療需要に応じた病床の機能分化と地域完結型医療を実現するために、地域に求められる医療体制の構築に努めるなど必要な役割を果たしている。
- ②勤務医等の負担軽減のための検討委員会を毎月開催し、報告、検討を行っている。女性の活躍推進を含めた次世代育成支援のための行動計画について令和3年度に3年間の目標を周知し、取り組みに努めている。
- ③災害発生後、早期に診療機能を回復できるよう災害医療BCP（業務継続計画）の確認・見直しを行っている。また、災害医療BCPに基づき、被災した状況を想定した研修及び訓練を実施し、医療救護活動の対応能力と職員の危機管理意識の向上を図っている。